



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月7日

上場会社名 株式会社バローホールディングス 上場取引所 東・名
 コード番号 9956 URL <https://valorholdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 田代 正美
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務経理部長 (氏名) 志津 幸彦 (TEL) 0574-60-0864
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 2019年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	336,735	20.4	7,436	△1.9	8,194	△4.4	3,797	△25.8
2019年3月期第2四半期	279,607	3.4	7,583	11.8	8,570	15.0	5,115	9.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 3,543百万円(△30.4%) 2019年3月期第2四半期 5,093百万円(9.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	70.71	—
2019年3月期第2四半期	99.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	376,719	140,401	34.7
2019年3月期	311,813	125,395	40.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 130,628百万円 2019年3月期 124,599百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	22.00	—	26.00	48.00
2020年3月期	—	24.00			
2020年3月期(予想)			—	28.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	660,000	16.6	16,600	16.8	18,300	13.7	9,000	13.8	167.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) アレンザホールディングス株式会社

(注) 第1四半期連結会計期間より、2019年4月1日付で株式交換により子会社化したアレンザホールディングス株式会社及びその子会社7社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	53,987,499株	2019年3月期	53,987,499株
2020年3月期2Q	293,211株	2019年3月期	293,231株
2020年3月期2Q	53,694,271株	2019年3月期2Q	51,158,578株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たりの注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いたものの、米国の通商政策が世界経済に与える影響が懸念されるなど、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。流通業界におきましては、業態を超えた競争の激化や人員不足感の高まり等を受け、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは、「店舗数から商品力へのパラダイムシフト」を基本方針とする中期3ヵ年経営計画の2期目を迎え、より商品に焦点をあてた競争力あるフォーマットへの転換に注力しました。スーパーマーケット事業では生鮮の強化を目的とした既存店改装・リロケーションを実施し、ドラッグストア事業では商圏特性に合わせた商品や機能の拡充を進めました。また、ホームセンター事業では、2019年4月1日を効力発生日とする株式会社ホームセンターバローとアレンザホールディングス株式会社との株式交換を通じて同事業を統合し、シナジー創出への取り組みを本格化させました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益は前年同四半期比20.4%増の3,367億35百万円となりました。営業利益は前年同四半期比1.9%減の74億36百万円に、経常利益は前年同四半期比4.4%減の81億94百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比25.8%減の37億97百万円となりました。なお、当第2四半期末現在のグループ店舗数は1,124店舗となっております。

統合により規模が拡大したホームセンター事業及びその他の事業（ペットショップ事業を含む）、前期から当期にかけてM&Aを行ったスーパーマーケット事業、好調な既存店売上高を維持するドラッグストア事業が増収に寄与しました。ドラッグストア事業、ホームセンター事業及びその他の事業は利益を伸ばしましたが、スーパーマーケット事業や流通関連事業における人件費の増加等が影響し、営業減益となりました。なお、資産効率の改善に向けて、店舗閉鎖の意思決定や閉鎖物件の解約処理等を行った結果、減損損失6億75百万円を特別損失として計上しております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

<スーパーマーケット(SM)事業>

SM事業の営業収益は1,856億65百万円（前年同四半期比6.4%増）、営業利益は42億9百万円（前年同四半期比13.5%減）となりました。

同事業では、生鮮食品を中心に特徴あるカテゴリーを前面に打ち出すとともに、その構成要素である商品力の向上に注力しました。好調な売上を維持する果物部門では、産地直送の取り組みを軸に、地方市場の活用やグループ企業間での産地共有を付加し、柔軟な仕入体制を構築しました。鮮魚部門では、刺身盛合せの販売が堅調に推移したほか、新たな取引先を開拓して鮭の販売強化を図り、グループ企業間で販売量を競い合うなど、販売力の強化に努めました。また、当社、株式会社アークス及び株式会社リテールパートナーズとの間で締結した資本業務提携の下、加工食品については限定商品の導入や共同販促企画の実施を通じてマスメリットを追求し、生鮮食品については産地情報等を共有しながら、「北海道礼文島真ほっけ開き」などの商品導入を進め、原価低減や売場の強化を図りました。

同事業におきましては、2019年8月に千葉県で生鮮ディスカウントストアを展開する株式会社てらお食品を子会社化し、同社の2店舗を併せて9店舗を新設、リロケーション・業態転換に係る2店舗を含む計3店舗を閉鎖し、当第2四半期末現在の店舗数はグループ合計296店舗となりました。

中核の株式会社バローでは8店舗の改装を行うとともに、「SMバロー中志段味店」（愛知県名古屋守山区）、「SMバロー正家店」（岐阜県恵那市）を移転新設し、拡張した青果・精肉売場を中心に魅力あるカテゴリーを連続的に配置しております。

同事業では、株式会社バローの既存店売上高が前年同四半期比で1.8%減少したものの、前期から当期にかけて開設した店舗や前期に子会社化した株式会社フタバヤ及び三幸株式会社が寄与し、増収となりました。第1四半期の業績を受けて、株式会社バローで売上総利益率の改善を進めたものの、人件費の増加を吸収できず、また三幸株式会社では、8月に実施した当社物流システムへの切り替えや商流変更を機に収益構造全般の見直しに着手しましたが、その効果はまだ小さく、事業全体で減益となりました。

<ドラッグストア事業>

ドラッグストア事業の営業収益は700億45百万円（前年同四半期比11.2%増）、営業利益は21億30百万円（前年同四半期比30.1%増）となりました。

同事業におきましては、2019年7月に岐阜県で調剤薬局を展開する有限会社ひだ薬局を子会社化し、同社の7店舗を併せて25店舗を新設、リロケーションに係る2店舗を含む計3店舗を閉鎖し、当第2四半期末現在の店舗数はグループ合計401店舗（うち調剤取扱100店舗）となりました。

商圏特性に合わせた店づくりを進め、移転新設により売場面積を拡張した「V・drug根本店」（岐阜県多治見市）では、化粧品やヘアケア用品を拡充したほか、旧店舗跡地へのクリニック誘致準備を行いました。また、都心部への新たな展開として、「V・drug内山店」（愛知県名古屋市中区）、「V・drug栄本町通店」（愛知県名古屋市中区）を開設し、テストリング・カウンターを設置した化粧品売場を展開するとともに、惣菜やインバウンド対応商品を導入しました。

専門性の強化に向けて、カウンセリングを必要とする医薬品や化粧品の販売に引き続き注力するとともに、接客時間を創出するため、商品補充の効率化を進めました。また、段階的に進めてきたEDLP（エブリデイ・ロー・プライス）及びローコスト・オペレーションを志向した店舗への移行を8月に完了し、チラシ投入回数の削減等による経費削減を原資に、地域の競争状況に対応した価格設定とするなど、競争力の維持に努めました。

同事業では食品、化粧品及び調剤が伸張し、既存店売上高が前年同四半期比で7.9%増加しました。前期から当期にかけて開設した店舗も寄与した結果、経費率の低減が一段と進み、増収増益となりました。

<ホームセンター(HC)事業>

HC事業の営業収益は556億22百万円（前年同四半期比100.7%増）、営業利益は19億84百万円（前年同四半期比26.2%増）となりました。なお、当第2四半期連結累計期間には、子会社化したアレンザホールディングス株式会社の2020年2月期第2四半期（2019年3月1日～2019年8月31日）の当該事業の業績が含まれておりますが、株式会社ホームセンターバローにつきましては、2019年4月1日から2019年8月31日までの5ヶ月間を対象としております。

同事業におきましては、事業統合を機にアレンザグループで実施した販促企画「アレンザホールディングス誕生祭」が好調に推移するとともに、同グループのプライベート・ブランド商品を株式会社ホームセンターバローに導入しました。商品力の強化に向けて合同商談を開催したほか、シナジー創出を着実に進めるため、持株会社が商品開発・共同仕入を推進して原価低減を図る一方、持株会社が保有していた仕入機能を事業会社（株式会社ダイユーエイト、株式会社タイム）に移行し、競争力をより高められるよう、組織体制を改めております。

店舗につきましては、4月にプロ向け2号店となる「PROsite（プロサイト）名港店」（愛知県名古屋市港区）を業態転換により開設し、商圏特性に合わせて、建築資材、工具・金物、作業衣料等を拡充しました。6月に「ダイユーエイト小高店」（福島県南相馬市）を開設、9月に2店舗を閉鎖し、当第2四半期末現在の店舗数はグループ合計145店舗となっております。

同事業では、株式会社ダイユーエイト、株式会社ホームセンターバロー及び株式会社タイムの3社計で既存店売上高が前年同四半期比で0.1%減少しましたが、子会社化したアレンザホールディングス株式会社の当該事業が寄与し、増収増益となりました。

<スポーツクラブ事業>

スポーツクラブ事業の営業収益は68億22百万円（前年同四半期比6.2%増）、営業利益は2億4百万円（前年同四半期比30.3%減）となりました。

同事業においては、低投資かつ月会費を抑えたフィットネスジム「スポーツクラブアクトスWill_G（ウィルジー）」の出店を加速し、23店舗（うちフランチャイズ運営8店舗）の新設により、当第2四半期末現在の店舗数は169店舗（うちフランチャイズ運営36店舗）となりました。8月には、ホームセンター事業の株式会社タイムが初めてフランチャイズ運営に着手するなど、アレンザホールディングス株式会社との提携時に企図したシナジー創出への取り組みが始まっております。

同事業では、出店に伴い会員数が増加しましたが、新設店に占める直営比率が依然として高く、開業費用が先行し、増収減益となりました。

<流通関連事業>

流通関連事業の営業収益は54億16百万円（前年同四半期比10.6%増）、営業利益は14億92百万円（前年同四半期比12.7%減）となりました。

物流、資材卸売、設備メンテナンスなど、流通に関わる事業に携わるグループ企業では、店舗新設や改装に伴う什器導入や、経費削減及び環境負荷低減に繋がる設備入れ替えを進めました。前期に連結対象となった子会社との取引が加わったものの、物流事業で経費増を吸収しきれず、事業全体で増収減益となりました。

<その他の事業>

その他の事業の営業収益は131億62百万円（前年同四半期比318.3%増）、営業利益は8億58百万円（前年同四半期比121.3%増）となりました。

同事業には、ペットショップ事業、不動産賃貸業、衣料品等の販売業などが含まれております。なお、当第2四半期連結累計期間には、アレンザホールディングス株式会社の2020年2月期第2四半期（2019年3月1日～2019年8月31日）のペットショップ事業等の業績が含まれておりますが、株式会社ホームセンターバローにつきましては、2019年4月1日から2019年8月31日の5ヶ月間を対象としております。

ペットショップ事業においても、プライベート・ブランドのペット用品をアレンザグループ企業間で共同販売する準備を進めました。店舗につきましては、2019年5月に「ペットワールドアミーゴ西条店」（広島県東広島市）を開設し、当第2四半期末現在のペットショップ店舗数はグループ合計102店舗となっております。

その他の事業では、子会社化したアレンザホールディングス株式会社の当該事業が寄与し、増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ649億6百万円増加し、3,767億19百万円となりました。これは主に現金及び預金49億94百万円、たな卸資産153億60百万円、差入保証金54億6百万円及び有形固定資産267億21百万円の増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ498億99百万円増加し、2,363億17百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金102億17百万円、電子記録債務47億85百万円及び借入金227億91百万円の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ150億6百万円増加し、1,404億1百万円となり、自己資本比率は34.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績につきましては、2019年5月9日決算発表時の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,494	23,489
受取手形及び売掛金	8,453	11,927
商品及び製品	36,148	51,407
原材料及び貯蔵品	790	891
その他	12,199	14,196
貸倒引当金	△89	△10
流動資産合計	75,995	101,902
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	110,179	129,471
土地	44,382	48,986
その他（純額）	22,421	25,247
有形固定資産合計	176,983	203,705
無形固定資産		
のれん	1,198	3,337
その他	8,548	11,865
無形固定資産合計	9,746	15,203
投資その他の資産		
差入保証金	27,451	32,858
その他	21,863	23,372
貸倒引当金	△227	△322
投資その他の資産合計	49,086	55,908
固定資産合計	235,817	274,817
資産合計	311,813	376,719

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	41,564	51,782
短期借入金	33,560	41,076
未払法人税等	3,445	3,302
賞与引当金	2,794	3,107
引当金	1,574	2,302
資産除去債務	110	229
その他	21,232	31,844
流動負債合計	104,283	133,644
固定負債		
社債	10,010	10,015
長期借入金	41,288	56,563
引当金	500	615
退職給付に係る負債	3,884	4,587
資産除去債務	9,396	10,582
その他	17,054	20,308
固定負債合計	82,134	102,673
負債合計	186,417	236,317
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,609	13,609
資本剰余金	15,543	20,093
利益剰余金	95,468	97,867
自己株式	△566	△566
株主資本合計	124,054	131,003
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	421	△602
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	155	248
退職給付に係る調整累計額	△33	△22
その他の包括利益累計額合計	544	△375
新株予約権	101	142
非支配株主持分	693	9,630
純資産合計	125,395	140,401
負債純資産合計	311,813	376,719

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	269,919	325,802
売上原価	202,206	242,215
売上総利益	67,712	83,587
営業収入	9,688	10,932
営業総利益	77,401	94,519
販売費及び一般管理費	69,818	87,083
営業利益	7,583	7,436
営業外収益		
受取利息	54	67
受取配当金	8	96
持分法による投資利益	31	23
受取事務手数料	518	478
受取賃貸料	362	409
その他	670	864
営業外収益合計	1,646	1,939
営業外費用		
支払利息	340	430
為替差損	—	310
不動産賃貸原価	272	339
その他	45	100
営業外費用合計	659	1,181
経常利益	8,570	8,194
特別利益		
固定資産売却益	2	3
負ののれん発生益	27	—
違約金収入	27	98
補助金収入	13	219
その他	50	27
特別利益合計	121	349
特別損失		
固定資産売却損	2	0
固定資産除却損	48	40
減損損失	291	675
店舗閉鎖損失	9	107
その他	111	327
特別損失合計	464	1,152
税金等調整前四半期純利益	8,226	7,391
法人税、住民税及び事業税	3,290	3,106
法人税等調整額	△142	△126
法人税等合計	3,148	2,980
四半期純利益	5,078	4,410
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△36	613
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,115	3,797

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	5,078	4,410
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	△1,025
繰延ヘッジ損益	4	△0
為替換算調整勘定	△17	151
退職給付に係る調整額	19	7
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	14	△866
四半期包括利益	5,093	3,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,129	2,877
非支配株主に係る四半期包括利益	△36	666

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,226	7,391
減価償却費	7,040	8,333
減損損失	291	675
のれん償却額	99	221
負ののれん発生益	△27	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△27
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	161	192
受取利息及び受取配当金	△63	△163
支払利息	340	430
持分法による投資損益(△は益)	△31	△23
固定資産除却損	48	40
売上債権の増減額(△は増加)	△382	△2,618
たな卸資産の増減額(△は増加)	549	△976
仕入債務の増減額(△は減少)	1,035	4,556
その他	651	757
小計	17,940	18,789
利息及び配当金の受取額	17	102
利息の支払額	△338	△402
法人税等の支払額	△2,666	△3,570
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,952	14,919
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,595	△10,082
有形固定資産の売却による収入	94	34
無形固定資産の取得による支出	△272	△1,093
差入保証金の差入による支出	△372	△951
差入保証金の回収による収入	596	688
預り保証金の受入による収入	154	79
預り保証金の返還による支出	△206	△232
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,538	△551
事業譲受による支出	△332	—
その他	△479	144
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,951	△11,964

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△123	△538
長期借入れによる収入	8,175	12,500
長期借入金の返済による支出	△6,480	△9,307
社債の償還による支出	△20	△50
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△944	△1,307
配当金の支払額	△1,229	△1,398
非支配株主への配当金の支払額	△1	△201
非支配株主からの払込みによる収入	12	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△351
その他	35	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△575	△656
現金及び現金同等物に係る換算差額	82	△324
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,507	1,973
現金及び現金同等物の期首残高	14,938	17,938
株式交換による現金及び現金同等物の増加額	—	3,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,446	22,915

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第1四半期連結会計期間より、2019年4月1日付で株式交換により子会社化したアレンザホールディングス株式会社及びその子会社7社を連結の範囲に含めております。この結果、当第2四半期連結累計期間における、当該株式交換による資本剰余金48億2百万円増加及び子会社株式の追加取得等により、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が200億93百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	スーパー マーケット(SM) 事業	ドラッグ ストア事 業	ホームセ ンター(H C)事業	スポーツ クラブ事 業	流通関連 事業	計		
営業収益								
外部顧客への営業収益	174,418	63,001	27,719	6,426	4,896	276,461	3,146	279,607
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	2,882	118	324	2	16,275	19,604	1,140	20,745
計	177,301	63,120	28,044	6,428	21,172	296,066	4,286	300,352
セグメント利益	4,865	1,637	1,573	292	1,709	10,078	387	10,465

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットショップの営業、衣料品等の販売業及び保険代理業等であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	10,078
「その他」の区分の利益	387
セグメント間取引消去	△2,782
全社費用等(注)	△99
四半期連結損益計算書の営業利益	7,583

(注) 全社費用等は、主に関係会社からの配当収入及び報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において閉鎖の意思決定をした店舗について、「スーパーマーケット(SM)事業」セグメント2億34百万円及び「ドラッグストア事業」セグメント56百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において「スーパーマーケット(SM)事業」セグメントでは、株式会社フタバヤの自己株式を除く全ての株式を取得し、連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は2億36百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	スーパー マーケット(SM) 事業	ドラッグ ストア事 業	ホームセ ンター(H C)事業	スポーツ クラブ事 業	流通関連 事業	計		
営業収益								
外部顧客への営業収益	185,665	70,045	55,622	6,822	5,416	323,572	13,162	336,735
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	2,651	73	828	2	16,977	20,532	2,180	22,713
計	188,316	70,118	56,451	6,824	22,394	344,105	15,343	359,448
セグメント利益	4,209	2,130	1,984	204	1,492	10,020	858	10,878

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットショップの営業、衣料品等の販売業及び保険代理業等であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	10,020
「その他」の区分の利益	858
セグメント間取引消去	△3,219
全社費用等(注)	△222
四半期連結損益計算書の営業利益	7,436

(注)全社費用等は、主に関係会社からの配当収入及び報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において閉鎖が予定されている店舗について、「スーパーマーケット(SM)事業」セグメント5億91百万円、「ドラッグストア事業」セグメント57百万円及び「ホームセンター(HC)事業」セグメント26百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、株式交換により株式を取得したアレンザホールディングス株式会社及びその子会社7社を連結の範囲に含めたことにより、「その他の事業」セグメントにおいてのれんが16億53百万円増加しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、当該のれんの金額はその時点で入手可能な合理的な情報に基づき暫定的に算定された金額であります。